

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7689035号
(P7689035)

(45)発行日 令和7年6月5日(2025.6.5)

(24)登録日 令和7年5月28日(2025.5.28)

(51)国際特許分類

F I

E 0 6 B 1/56 (2006.01) E 0 6 B 1/56 A

E 0 6 B 1/62 (2006.01) E 0 6 B 1/62 A

請求項の数 4 (全12頁)

(21)出願番号	特願2021-133443(P2021-133443)	(73)特許権者	504163612 株式会社 L I X I L
(22)出願日	令和3年8月18日(2021.8.18)		東京都品川区西品川一丁目1番1号 大
(65)公開番号	特開2023-28011(P2023-28011A)		崎ガーデンタワー
(43)公開日	令和5年3月3日(2023.3.3)	(74)代理人	100106002 弁理士 正林 真之
審査請求日	令和6年6月5日(2024.6.5)	(74)代理人	100165157 弁理士 芝 哲央
		(74)代理人	100126000 弁理士 岩池 満
		(74)代理人	100160794 弁理士 星野 寛明
		(72)発明者	近藤 雅徳 東京都江東区大島二丁目1番1号 株式 会社 L I X I L 内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 改装建具

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

建物の開口部に設けられた既設枠の内周側に配置される改装建具であって、
四周を組んで構成された新設枠と、
前記新設枠と前記既設枠との間に配置され四周を組んで構成されたアタッチメント枠と、
を備え、
前記既設枠、前記アタッチメント枠及び前記新設枠は、前記改装建具の外周側から内周側
に向けてこの順に並んで配置され、
前記アタッチメント枠に取り付けられ前記アタッチメント枠の室外側及び前記既設枠の
室外側において見付方向に延びる見付方向延在部を有する第1カバー材と、
前記アタッチメント枠に取り付けられ前記アタッチメント枠の室外側及び前記既設枠の
室外側において見込方向に延びる見込方向延在部を有する第2カバー材と、を備える改装
建具。

【請求項2】

前記第2カバー材は、見付方向に延びる取付部を有し、
前記取付部は、前記アタッチメント枠にネジにより固定され、
前記第1カバー材は、前記取付部を前記アタッチメント枠に固定した前記ネジを覆うよ
うに配置される、請求項1に記載の改装建具。

【請求項3】

前記第2カバー材は、断面形状がL字状に形成される、請求項1又は2に記載の改装建

具。

【請求項 4】

前記第 2 カバー材は、予め準備されている複数種類の汎用部品から選択される、請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の改装建具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本開示は、改装建具に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、建物の開口部をリフォーム等で改装する方法として開口部に新たな建具を設置するカバー工法が採用されている。このカバー工法によって改装された改装建具では、建物の開口部に取り付けられた既設枠に対して、その内周側に新設枠が取り付けられる（例えば、特許文献 1 参照）。

【0003】

特許文献 1 に記載の改装建具は、四周を組んで構成された新設枠と、新設枠の表面に取り付けられる長尺状のカバー材と、を備える。カバー材は、新設枠の表面を覆うように取り付けられている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【文献】特開 2018 - 178575 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

ところで、改装する現場において、新設枠の表面にカバー部材を取り付けた場合に、現場の納まりによっては、カバー部材が取り付けられていない既設枠の側方の部分が外壁面側から視認されることがある。この場合には、意匠性が損なわれる可能性がある。また、壁の厚さが異なる様々な現場の納まりによって、外壁面側から視認される部分の程度も異なる。よって、様々な現場に対応して、意匠性を向上できることが求められている。

【0006】

本開示は、様々な現場に対応して、意匠性を向上できる改装建具を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本開示は、建物の開口部に設けられた既設枠に取り付けられる改装建具であって、四周を組んで構成された新設枠と、前記新設枠と前記既設枠との間に配置され四周を組んで構成されたアタッチメント枠と、前記アタッチメント枠に取り付けられ前記アタッチメント枠の室外側において見付方向に延びる見付方向延在部を有する第 1 カバー材と、前記アタッチメント枠に取り付けられ前記アタッチメント枠の室外側において見込方向に延びる見込方向延在部を有する第 2 カバー材と、を備える改装建具に関する。

【図面の簡単な説明】

【0008】

【図 1】実施形態に係る改装建具を室外側から見た正面図である。

【図 2】図 1 に示す改装建具の縦断面図である。

【図 3】図 1 に示す改装建具の横断面図である。

【図 4】アタッチメント枠を取り付けた新設枠を既設枠に取り付けた状態を室外側から見た斜視図である。

【図 5】室外側正面化粧カバー及び室外側側部化粧カバーを取り付ける状態を示す斜視図である。

10

20

30

40

50

【図 6】アタッチメント枠を取り付けた新設枠を既設枠に取り付けた状態を室内側から見た斜視図である。

【図 7】室内側化粧部材及び見切り材を取り付ける状態を示す斜視図である。

【図 8】アタッチメント枠を取り付けた新設枠を既設枠に取り付ける状態を示す斜視図である。

【図 9】室外側側部化粧カバー及び室外側側部化粧カバーをアタッチメント縦枠に取り付けた状態を示す拡大縦断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0009】

以下、本開示の実施形態について、図面を参照しながら詳しく説明する。本実施形態に係る改装建具 1 は、建物 100 に固定されている既設枠 6 を建物 100 に取り付けたまの状態で、新たな部材を新設して形成するリフォーム用の改装建具 1 である。

【0010】

本明細書において、「見付方向」とは、建物 100 の壁に形成された開口部に納められた改装建具 1 における障子 10 の面材の面方向を意味し、「見込方向」とは、上記面材の厚さ方向（即ち、奥行き方向）を意味する。「見込方向」は室内外方向でもある。図面において、改装建具 1 の室外側を室外側 X 1 とし、改装建具 1 の室内側を室内側 X 2 とする。改装建具 1 の横方向を「左右方向」という。

【0011】

図 1～図 8 に示すように、本実施形態に係る改装建具 1 は、建物 100 の開口部に納められた引違い窓タイプの改装サッシである。改装建具 1 は、建物 100 の開口部に設けられた既設枠 6 に取り付けられる。

【0012】

改装建具 1 は、図 1～図 8 に示すように、新設枠 2 と、新設枠 2 の外周に取り付けられた状態で既設枠 6 の内側に取り付けられるアタッチメント枠 3 と、室内側化粧部材 4 1, 4 2, 4 3 と、室外側正面化粧カバー 5 1, 5 2, 5 3（第 1 カバー材）と、室外側側部化粧カバー 8（第 2 カバー材）と、新設枠 2 内にスライド可能に納められる障子 10、10 と、を備える。既設枠 6 は、建物 100 の開口部に設けられている。新設枠 2 は、アタッチメント枠 3 が外周に取り付けられた状態で、既設枠 6 の内側に取り付けられる。アタッチメント枠 3 は、既設枠 6 と新設枠 2 との間に配置される。

【0013】

まず、既設枠 6 の構成について説明する。既設枠 6 は、図 2 及び図 3 に示すように、建物 100 の開口部の内側に設けられ、矩形に組まれた枠状に形成される。既設枠 6 は、既設上枠 6 1 と、既設下枠 6 2 と、左右の既設縦枠 6 3 と、を備える。

【0014】

既設上枠 6 1 は、図 2 に示すように、建物 100 の開口部の上部側に取り付けられており、下方に向けて立設される既設障子用のガイドレール 6 1 1、6 1 2 を有する。既設上枠 6 1 の室内側 X 2 の部分は、建物 100（躯体）に固定されている。

【0015】

既設下枠 6 2 は、建物 100 の開口部の下部側に取り付けられており、上方に向けて立設される既設障子用のガイドレール 6 2 1、6 2 2 を有する。既設下枠 6 2 の室内側 X 2 の部分は、建物 100（躯体）に固定されている。

【0016】

既設縦枠 6 3 は、図 3 に示すように、建物 100 の開口部の室外側 X 1 の左右縦部側にそれぞれ取り付けられている。既設縦枠 6 3 の室内側 X 2 の部分は、建物 100（躯体）に固定されている。

【0017】

新設枠 2 は、図 6 に示すように、アタッチメント枠 3 が外周に取り付けられた状態で、既設枠 6 に取り付けられる。新設枠 2 は、四周を組んで構成され、既設枠 6 の内周側にアタッチメント枠 3 を介して取り付けられる。

10

20

30

40

50

【 0 0 1 8 】

新設枠 2 は、新設上枠 2 1 と、新設下枠 2 2 と、左右の新設縦枠 2 3 と、を備える。新設枠 2 は、四周を組んだ状態において、新設上枠 2 1、新設下枠 2 2 及び左右の新設縦枠 2 3 が組み合う部分において、ネジ固定されている。アタッチメント枠 3 は、アタッチメント上枠 3 1 と、アタッチメント下枠 3 2 と、左右のアタッチメント縦枠 3 3 と、を備える。

【 0 0 1 9 】

新設上枠 2 1 は、アタッチメント枠 3 が外周に取り付けられた新設枠 2 が既設枠 6 に取り付けられた状態において、図 2 に示すように、アタッチメント上枠 3 1 を間に挟んで、既設上枠 6 1 の内周側に取り付けられる。新設上枠 2 1 は、下方に向けて立設される障子 1 0 , 1 0 の上部側のガイドレール 2 1 1、2 1 2 を有する。

10

【 0 0 2 0 】

新設下枠 2 2 は、アタッチメント枠 3 が外周に取り付けられた新設枠 2 が既設枠 6 に取り付けられた状態において、図 2 に示すように、アタッチメント下枠 3 2 を間に挟んで、既設下枠 6 2 の内周側に取り付けられる。新設下枠 2 2 は、上方に向けて立設される障子 1 0 , 1 0 の下部側のガイドレール 2 2 1 , 2 2 2 を有する。

【 0 0 2 1 】

新設縦枠 2 3 は、アタッチメント枠 3 が外周に取り付けられた新設枠 2 が既設枠 6 に取り付けられた状態において、図 3 に示すように、アタッチメント縦枠 3 3 を間に挟んで、既設縦枠 6 3 の内周側に取り付けられる。

20

【 0 0 2 2 】

新設上枠 2 1、新設下枠 2 2 及び新設縦枠 2 3 は、例えば、金属材料や樹脂材料により形成される。図 2 及び図 3 に示すように、新設上枠 2 1、新設下枠 2 2 及び新設縦枠 2 3 の室内側 X 2 には、それぞれ、樹脂アングル部材 2 1 3 , 2 2 3 , 2 3 3 が設けられる。樹脂アングル部材 2 1 3 , 2 2 3 , 2 3 3 は、それぞれ額縁部材 1 0 1 との間に間隔を有して配置される。

【 0 0 2 3 】

以上の新設枠 2 (新設上枠 2 1、新設下枠 2 2 及び左右の新設縦枠 2 3) は、図 6 に示すように、アタッチメント枠 3 (アタッチメント上枠 3 1、アタッチメント下枠 3 2 及び左右のアタッチメント縦枠 3 3) が外周において四周を組んで設けられた状態で、既設枠 6 (既設上枠 6 1、既設下枠 6 2 及び左右の既設縦枠 6 3) の内周側に取り付けられる。

30

【 0 0 2 4 】

アタッチメント枠 3 は、新設枠 2 の外周に四周を組んで取り付けられる。アタッチメント枠 3 は、新設枠 2 の外周に四周を組んで取り付けられた状態で、既設枠 6 の内周側に取り付けられる。

【 0 0 2 5 】

アタッチメント枠 3 は、図 6 に示すように、アタッチメント上枠 3 1、アタッチメント下枠 3 2 及び一対のアタッチメント縦枠 3 3 が四周に配置されて矩形に組んで構成される。アタッチメント上枠 3 1、アタッチメント下枠 3 2 及び左右のアタッチメント縦枠 3 3 は、それぞれ、例えば、アルミニウム材料で形成される。

40

【 0 0 2 6 】

アタッチメント上枠 3 1、アタッチメント下枠 3 2 及び左右のアタッチメント縦枠 3 3 は、図 2 及び図 3 に示すように、それぞれ、ネジ 3 6 により、建物 1 0 0 (躯体) に固定される。アタッチメント上枠 3 1、アタッチメント下枠 3 2 及び左右のアタッチメント縦枠 3 3 それぞれと、額縁部材 1 0 1 との間に隙間が形成される場合には、アタッチメント上枠 3 1、アタッチメント下枠 3 2 及び左右のアタッチメント縦枠 3 3 それぞれと、額縁部材 1 0 1 との間に、スペーサ部材 3 7 が配置される。スペーサ部材 3 7 の一例としては、樹脂材料などで形成された薄板状の部材を挙げることができる。

【 0 0 2 7 】

また、改装建具 1 は、図 2 及び図 3 に示すように、気密構造 7 0 を有する。気密構造 7

50

0 は、既設枠 6 側と新設枠 2 側とを気密テープ（既設枠側気密テープ 7 1、連結気密テープ 7 2）により、既設枠 6 と新設枠 2 に取り付けられたアタッチメント枠 3 とを繋ぐように構成される。気密構造 7 0 は、既設枠 6 と新設枠 2 との間の気密性能を向上させるために、既設枠 6 と新設枠 2 に取り付けられたアタッチメント枠 3 とを繋ぐように配置される。

【0028】

室内側化粧部材 4 1、4 2、4 3 は、図 2 及び図 3 に示すように、新設枠 2 の樹脂アングル部材 2 1 3、2 2 3、2 3 3 の室内側 X 2 の表面に、それぞれ、取り付けられている。室内側化粧部材 4 1、4 2、4 3 と額縁部材 1 0 1 の内周面との境目は、建物 1 0 0（躯体）に固定される断面が L 字の見切り材 4 5 によって遮蔽されている。

【0029】

室外側正面化粧カバー 5 1、5 2、5 3 は、図 4 及び図 5 に示すように、上部側において横方向に延びる上部横化粧カバー 5 1（横カバー材）と、下部側において横方向に延びる下部横化粧カバー 5 2（横カバー材）と、上下方向に延びる一対の縦化粧カバー 5 3（縦カバー材）と、から構成される。

【0030】

上部横化粧カバー 5 1、下部横化粧カバー 5 2、縦化粧カバー 5 3 は、それぞれ、アタッチメント上枠 3 1、アタッチメント下枠 3 2、アタッチメント縦枠 3 3 それぞれの室外側 X 1 の表面に取り付けられている。これにより、上部横化粧カバー 5 1、下部横化粧カバー 5 2、縦化粧カバー 5 3 が、それぞれ、アタッチメント上枠 3 1、アタッチメント下枠 3 2、アタッチメント縦枠 3 3 それぞれの室外側 X 1 の凹凸を覆うことで、室外側正面化粧カバー 5 1、5 2、5 3 の室外側 X 1 の平面状の面が室外側 X 1 に露出されるため、意匠性を向上できる。

【0031】

縦化粧カバー 5 3 が取り付けられる部分の周辺の構造について更に説明する。縦化粧カバー 5 3 が取り付けられた部分の側方において、建物 1 0 0 との納まりによっては、側部から既設縦枠 6 3 が視認されることがある。また、現場によっては、壁の厚さも異なるため、既設縦枠 6 3 が視認される程度も異なる。

【0032】

これに対して、本実施形態においては、図 9 に示すように、アタッチメント縦枠 3 3 には、室外側 X 1 において、アタッチメント縦枠 3 3 の室外側 X 1 側の面を覆うように、縦化粧カバー 5 3 が取り付けられると共に、既設縦枠 6 3 の側部を覆うように、室外側側部化粧カバー 8 が取り付けられる。室外側側部化粧カバー 8 は、縦化粧カバー 5 3 が取り付けられたアタッチメント縦枠 3 3 の左右方向の外側から、既設縦枠 6 3 の側部を覆うように、アタッチメント縦枠 3 3 に取り付けられる。

【0033】

まず、室外側側部化粧カバー 8 の周辺に配置されるアタッチメント縦枠 3 3 及び縦化粧カバー 5 3 の構成について説明する。アタッチメント縦枠 3 3 は、図 9 に示すように、アタッチメント縦枠中空部 3 3 1（中空部）と、室外側左右方向延在板部 3 3 2 と、一対の係合突起 3 3 3 と、を有する。

【0034】

アタッチメント縦枠中空部 3 3 1 は、室内外方向に延びる細長い長方形の中空状に形成される。

【0035】

一対の係合突起 3 3 3 は、左右に離れて配置され、アタッチメント縦枠中空部 3 3 1 の室外側 X 1 の面から室外側 X 1 に突出して形成される。一対の係合突起 3 3 3 には、縦化粧カバー 5 3 の一対の係合突起 5 3 2 が係合して取り付けられる。

【0036】

室外側左右方向延在板部 3 3 2 は、一対の係合突起 3 3 3 のうちの左右方向の外側の係合突起 3 3 3 の室内外方向の途中から左右方向の外側に延出する板状に形成される。室外側左右方向延在板部 3 3 2 は、アタッチメント縦枠 3 3 の室外側 X 1 の端部に配置され、

10

20

30

40

50

左右方向（見付方向）に延びる。室外側左右方向延在板部 3 3 2 には、室外側側部化粧カバー 8 の取付板部 8 1（後述）が、ネジ 8 3 により固定される。

【 0 0 3 7 】

縦化粧カバー 5 3 は、図 9 に示すように、見付方向延在板 5 3 1（見付方向延在部）と、一对の係合突起 5 3 2 と、突出片 5 3 3 と、を有する。

【 0 0 3 8 】

見付方向延在板 5 3 1 は、左右方向に幅を有し、アタッチメント縦枠 3 3 の長手方向に沿って長尺状に延びる板状に形成される。見付方向延在板 5 3 1 は、アタッチメント縦枠 3 3 の室外側 X 1 の面を覆うように配置される。見付方向延在板 5 3 1 は、室外側左右方向延在板部 3 3 2 を覆うように、アタッチメント縦枠 3 3 の室外側左右方向延在板部 3 3 2 の室外側 X 1 に配置される。見付方向延在板 5 3 1 は、室外側 X 1 を向く面を有する。

10

【 0 0 3 9 】

一对の係合突起 5 3 2 は、見付方向延在板 5 3 1 の左右方向における障子 1 0 が配置される側において、左右に離れて配置され、見付方向延在板 5 3 1 の室内側 X 2 の面から室内側 X 2 に突出する。一对の係合突起 5 3 2 には、アタッチメント縦枠 3 3 の一对の係合突起 3 3 3 が係合して取り付けられる。

【 0 0 4 0 】

突出片 5 3 3 は、見付方向延在板 5 3 1 の左右方向において、障子 1 0 が配置される側とは反対側の端部から室内側 X 2 に突出する。

【 0 0 4 1 】

20

次に、アタッチメント縦枠 3 3 に取り付けられる室外側側部化粧カバー 8 の構成について説明する。室外側側部化粧カバー 8 は、様々な現場に対応できるように、改装建具 1 の専用部品ではなく、汎用部品により構成される。汎用部品は、様々な現場の事情により生じた隙間を覆ったり部材を覆ったりするための部品として、予め様々な形状の複数種類の部品が準備されている。

【 0 0 4 2 】

本実施形態においては、室外側側部化粧カバー 8 は、予め準備されている複数種類の汎用部品から選択され、断面形状が L 字状に形成される。室外側側部化粧カバー 8 は、取付板部 8 1（取付部）と、遮蔽板部 8 2（見込方向延在部）と、を有する。

【 0 0 4 3 】

30

取付板部 8 1 は、板状に形成され、左右方向に幅を有し、上下方向に延びる。取付板部 8 1 は、アタッチメント縦枠 3 3 の室外側左右方向延在板部 3 3 2 にネジ 8 3 により固定される。取付板部 8 1 が室外側左右方向延在板部 3 3 2 にネジ 8 3 により固定された状態においては、取付板部 8 1 の室外側 X 1 の全部、及び、室外側側部化粧カバー 8 の取付板部 8 1 を固定したネジ 8 3 は、縦化粧カバー 5 3 に覆われる。室外側側部化粧カバー 8 の室外側 X 1 が縦化粧カバー 5 3 に覆われることで、室外側側部化粧カバー 8 を取り付けしたことによる意匠性の低下は生じない。

【 0 0 4 4 】

遮蔽板部 8 2 は、取付板部 8 1 の左右方向の外側の端部から室内側 X 2 に延びる。遮蔽板部 8 2 は、既設縦枠 6 3 及びアタッチメント縦枠 3 3 を左右方向の外側から側方から視認されないように、既設縦枠 6 3 及びアタッチメント縦枠 3 3 の側部を覆うように配置される。遮蔽板部 8 2 は、板状に形成され、室内外方向（見込方向）に幅を有し、上下方向に延びる。遮蔽板部 8 2 は、室内外方向において、建物 1 0 0 から室外側正面化粧カバー 5 3 に亘って延びて形成される。

40

【 0 0 4 5 】

室外側側部化粧カバー 8 及び縦化粧カバー 5 3 を、アタッチメント縦枠 3 3 に取り付ける手順について説明する。まず、様々な現場に応じて、室外側側部化粧カバー 8 を、壁の厚さなどに対応するように、予め準備されている複数種類の汎用部品から選択しておく。

【 0 0 4 6 】

そして、選択した汎用部品の室外側側部化粧カバー 8 を使用して、現場において、ネジ

50

８３により、室外側側部化粧カバー８の取付板部８１を、アタッチメント縦枠３３の室外側左右方向延在板部３３２に固定する。これにより、室外側側部化粧カバー８の遮蔽板部８２は、既設縦枠６３及びアタッチメント縦枠３３の左右方向の外側から側方から視認されないように、既設縦枠６３及びアタッチメント縦枠３３の側部を覆うことができる。

【００４７】

次に、縦化粧カバー５３の一对の係合突起５３２をアタッチメント縦枠３３の一对の係合突起３３３に係合させることで、縦化粧カバー５３をアタッチメント縦枠３３に取り付ける。これにより、縦化粧カバー５３は、アタッチメント縦枠３３の室外側Ｘ１の面、アタッチメント縦枠３３の室外側Ｘ１の面に配置された室外側側部化粧カバー８の取付板部８１、及び、室外側側部化粧カバー８の取付板部８１を固定したネジ８３を、室外側Ｘ１に露出しないように覆うことができる。室外側側部化粧カバー８の室外側Ｘ１が縦化粧カバー５３に覆われることで、室外側側部化粧カバー８を取り付けたことによる意匠性の低下は生じない。

10

【００４８】

本実施形態によれば、以下の効果が奏される。本実施形態の改装建具１は、建物１００の開口部に設けられた既設枠６に取り付けられ、四周を組んで構成された新設枠２と、新設枠２と既設枠６との間に配置され四周を組んで構成されたアタッチメント枠３と、アタッチメント枠３に取り付けられアタッチメント枠３の室外側Ｘ１において見付方向に延びる見付方向延在部５３１を有する室外側正面化粧カバー５３と、アタッチメント枠３に取り付けられアタッチメント枠３の室外側Ｘ１において見込方向に延びる見込方向延在部８２を有する室外側側部化粧カバー８と、を備える。

20

【００４９】

これにより、室外側正面化粧カバー５３の見付方向延在板５３１は、アタッチメント縦枠３３の室外側Ｘ１の面を覆うように配置される。また、室外側側部化粧カバー８の遮蔽板部８２は、既設縦枠６３及びアタッチメント縦枠３３が左右方向の外側の側方から視認されないように、既設縦枠６３及びアタッチメント縦枠３３の側部を覆うように配置される。これにより、様々な現場に対応して、意匠性を向上できる。

【００５０】

また、本実施形態においては、室外側側部化粧カバー８は、見付方向に延びる取付板部８１を有し、取付板部８１は、アタッチメント枠３にネジ８３により固定され、室外側正面化粧カバー５３は、取付板部８１をアタッチメント枠３に固定したネジ８３を覆うように配置される。これにより、室外側側部化粧カバー８を固定したネジ８３を覆うことができるため、意匠性を向上できる。

30

【００５１】

また、本実施形態においては、室外側側部化粧カバー８は、断面形状がＬ字状に形成される。これにより、室外側側部化粧カバー８を簡易な構成とすることができる。よって、室外側側部化粧カバー８の取り扱いも容易で、アタッチメント枠３に容易に取り付けることができる。

【００５２】

また、本実施形態においては、室外側側部化粧カバー８は、予め準備されている複数種類の汎用部品から選択される。これにより、専用部品を準備しておかなくても、様々な現場に対応することができる。

40

【００５３】

以上、本開示の好ましい一実施形態について説明したが、本開示は、上述した実施形態に制限されるものではなく、適宜変更が可能である。

【００５４】

例えば、前記実施形態においては、室外側側部化粧カバー８として、断面形状がＬ字状の汎用部品を用いているが、これに限定されない。汎用部品として、例えば、断面形状がクランク形状の部品や、断面形状がＵ字状の部品や、断面形状が直線状の板材の部品や、中空状の部品などを用いて、既設縦枠６３及びアタッチメント縦枠３３の側部を覆う室外

50

側側部化粧カバーを構成してもよい。

【 0 0 5 5 】

また、前記実施形態においては、改装建具 1 を引違い窓タイプの改装サッシに適用した場合について説明した。しかし、これに限定されない。改装建具を、例えば、回転軸を中心に戸体が回転して開閉する開閉式の改装建具や、縦引き出し式の改装建具に適用してもよい。また、改装建具を、例えば、枠に対して開閉しないで固定してガラスが取り付けられる F I X 式の改装建具に適用してもよい。

【符号の説明】

【 0 0 5 6 】

1 改装建具、2 新設枠、3 アタッチメント枠、6 既設枠、8 室外側側部化粧カバー（第 2 カバー材）、3 3 アタッチメント縦枠、5 3 室外側正面化粧カバー、縦化粧カバー（第 1 カバー材）、8 2 遮蔽板部（見込方向延在部）、8 1 取付板部（取付部）、8 3 ネジ、1 0 0 建物、5 3 1 見付方向延在板（見付方向延在部）

10

20

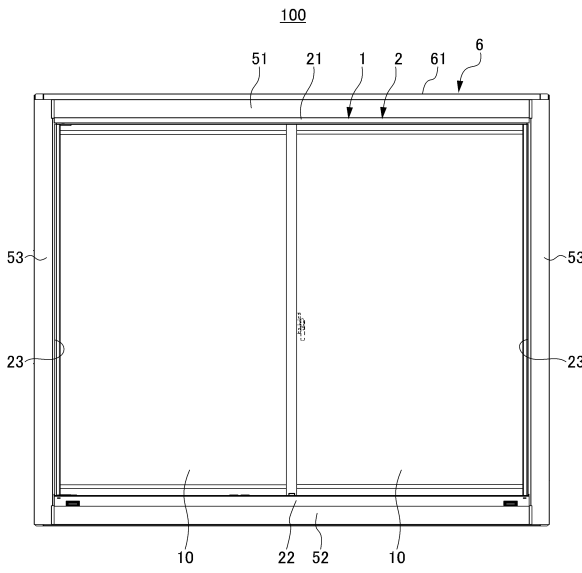
30

40

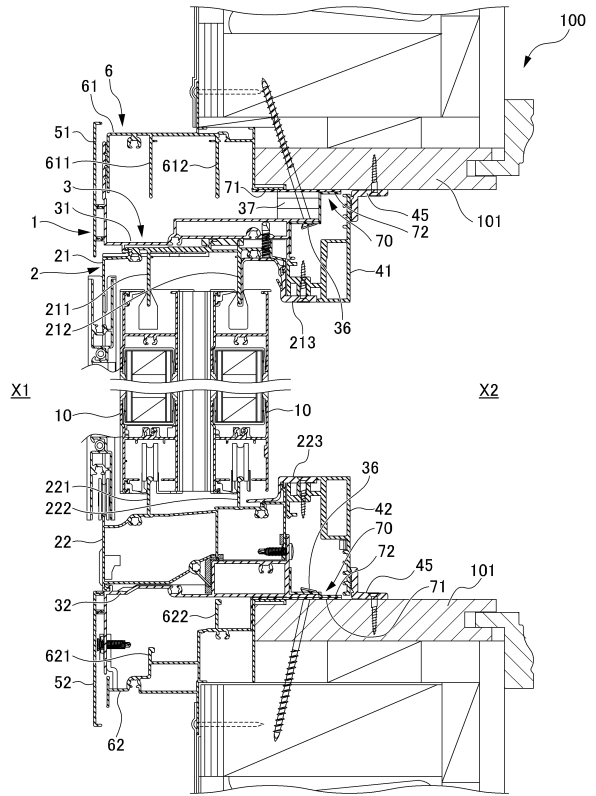
50

【図面】

【図 1】



【図 2】



10

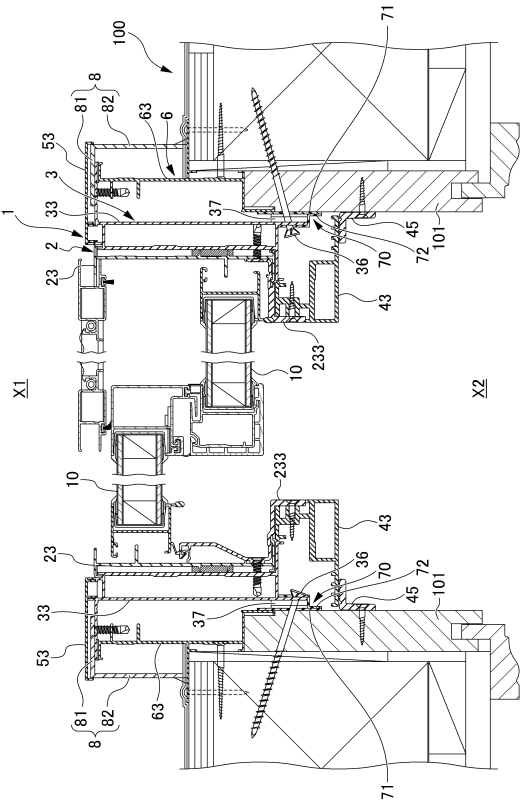
20

30

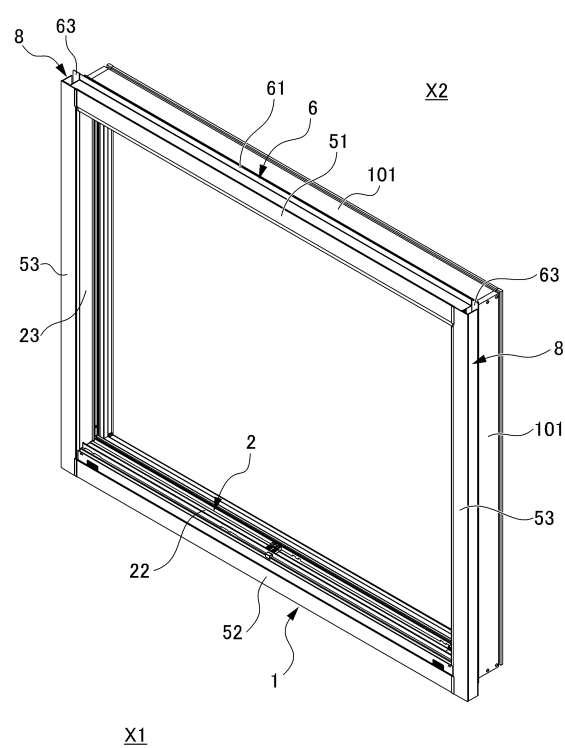
40

50

【図 3】



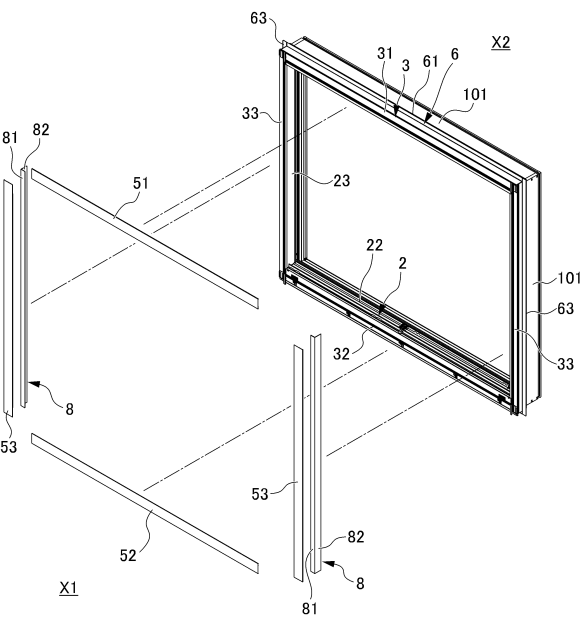
【図 4】



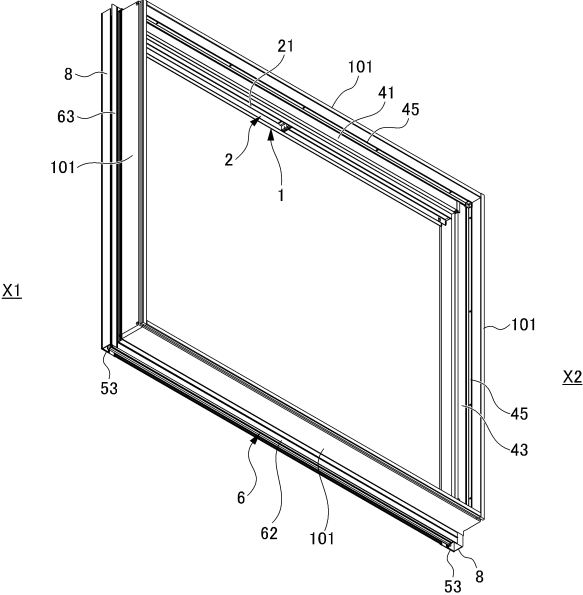
10

20

【図 5】



【図 6】

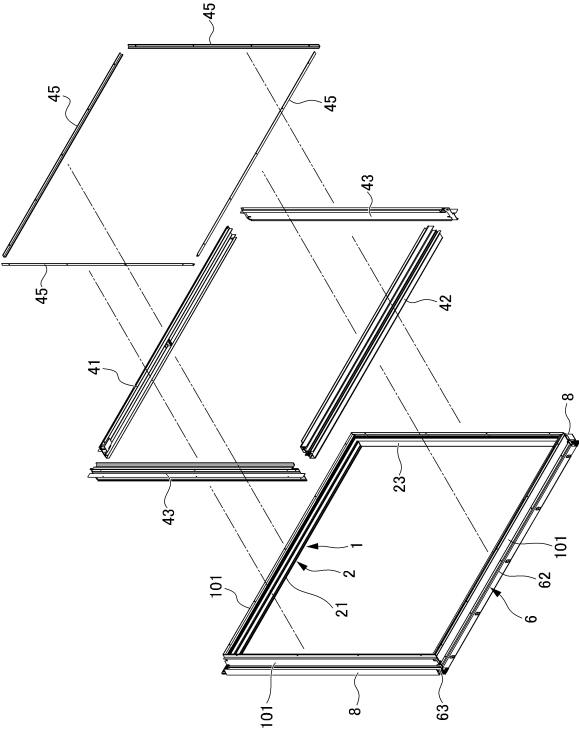


30

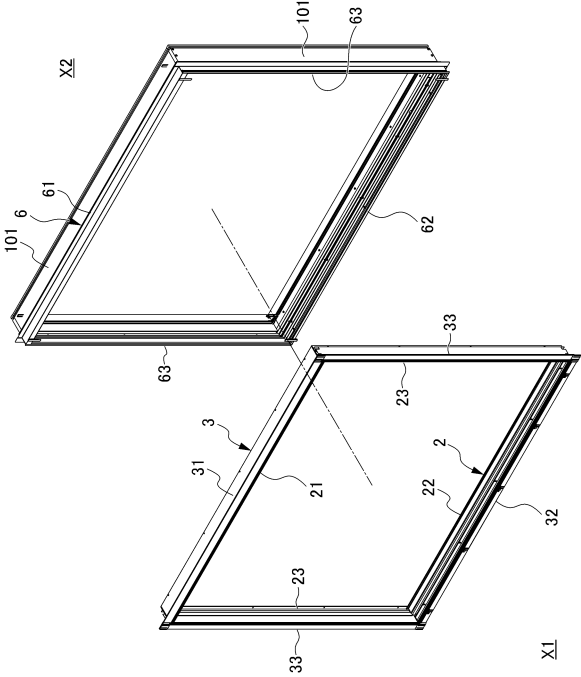
40

50

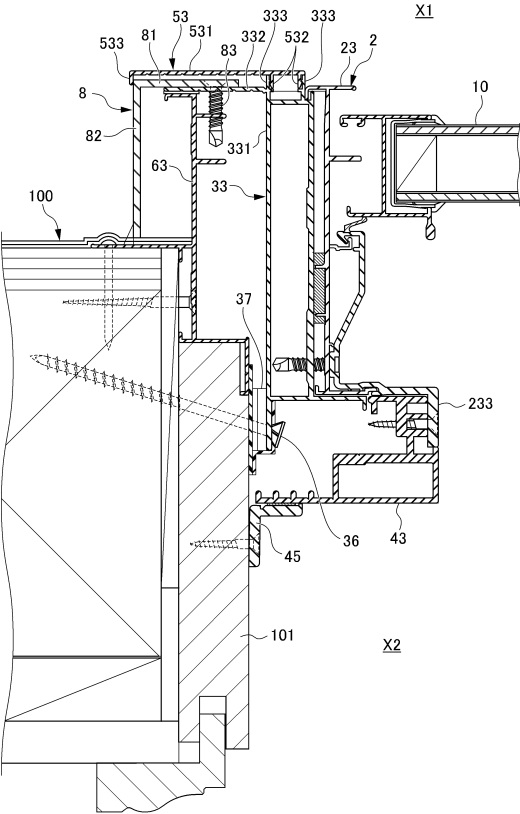
【図 7】



【図 8】



【図 9】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

審査官 砂川 充

- (56)参考文献 実開昭 6 1 - 1 8 9 9 7 5 (J P , U)
特開 2 0 1 6 - 1 6 6 5 0 7 (J P , A)
特開 2 0 1 0 - 1 1 2 1 1 3 (J P , A)
特開平 9 - 3 0 3 0 4 4 (J P , A)
特開 2 0 1 9 - 1 5 2 0 7 2 (J P , A)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
E 0 6 B 1 / 5 6 - 1 / 6 2